科目ナンバリング	U-LAS02 10029 LJ35						
授業科目名<英訳>	日本・東洋音楽史 I History of Japanese and East Asian Music I			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 鈴木　聖子		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

テーマ：職能としての音楽芸能の歴史
古来、日本では「音楽」と「芸能」は分かちがたく結びついてきた。また、それらの音楽芸能は、中央の儀式音楽等から周縁の門付け芸等まで、身分制度や社会環境などによって決定づけられた人々によって担われてきた。神話時代から現代までの職能音楽芸能者をいくつかのテーマに沿って概観しつつ、職能音楽芸能者に関心が集まった近現代の思想のパラダイムをメタ的に考察する。１回の授業の前半で論じたことを元に、後半では実習的な作業を行なう。

[到達目標]

日本の歴史における職能音楽芸能者に関する基礎的な知識を習得するだけではなく、それらの芸能者を対象とした近現代の研究のパラダイムをメタ的に考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

①イントロダクション
②神話・縄文・弥生：巫女・わざおぎ
③古代：陰陽師・楽師・散所の人々
④中世（１）：説教師・声聞師・絵解・萬歳法師・獅子舞・猿廻（猿曳）
⑤中世（２）：楽師・白拍子・「お能」の役者
⑥近世（１）：琵琶法師
⑦近世（２）：物売り・噺家
⑧近世（３）：浄瑠璃の太夫と三味線弾き
⑨明治・大正・昭和：楽師・音楽教師・歌手・鶯芸者
⑩昭和後期（１）：放浪の芸能者（浪花節師・万歳）
⑪昭和後期（２）：猿廻し師
⑫昭和後期（３）：ストリップの踊り子
⑬沖縄の音楽芸能者
⑭アイヌの音楽芸能者
⑮フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（20点）、レポート試験（80点）

日本・東洋音楽史 I(2)へ続く↓↓↓

日本・東洋音楽史 I(2)

[教科書]

パワーポイントと音響映像メディアを使用する。

[参考書等]

（参考書）

藤井知昭・馬場雄司(編)『職能としての音楽（民族音楽叢書Ⅰ）』（東京書房、1990年）
鵜飼正樹『見世物稼業：安田里美一代記』（新宿書房、2000年）
渡辺裕『日本文化モダン・ラプソディ』（春秋社、2002年）
田中健次『図解 日本音楽史 増補改訂版』（東京堂出版、2018年）
徳丸吉彦『ものがたり日本音楽史』（岩波ジュニア新書、2019年）
徳丸吉彦監修『ビジュアル日本の音楽の歴史』(全3巻)』（ゆまに書房、2023年）
鈴木聖子『沖縄音楽の録音採集における周縁性の諸相』（『GENESIS』、20、2016年12月、34-46頁）
鈴木聖子『掬われる声、語られる芸 : 小沢昭一と『ドキュメント日本の放浪芸』』（春秋社、2023年）
鈴木聖子『小沢昭一の「ベートーヴェン人生劇場〈残侠篇〉」――『題名のない音楽会』における日本の伝統音楽・伝統芸能の役割』
沼口隆・安川智子・齋藤桂・白井史人編著『ベートーヴェンと大衆文化 : 受容のプリズム』（春秋社、2024年）

[授業外学修（予習・復習）等]

日本の伝統的な音楽について、受講期間中に必ず一つは生演奏を聴く経験をもつこと

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]